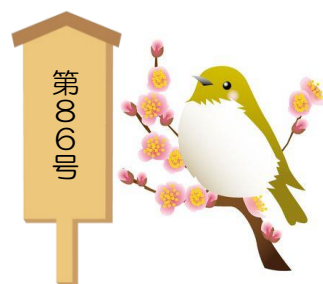


## 曙 光



令和7年2月1日発行

広島県立

総合リハビリテーションセンター

あけぼの

〒739-0036

東広島市西条町田口 295-3

TEL (082) 425-1455

今年度末で定年退職の予定

だが、二〇〇六年から始まった指定管理者制度は、事業団にも大きな影響があり今日に至っている。その時期に事務局員として県との調整に携わった職員は自分を除き全員退職してしまった。この広報誌とは関連性が希薄かもしれないが、最後の一人として私なりの思いをお伝えしたい。

私が事務局に異動した一九九七年は古き良き時代の面影のある時であった。福祉施設のある施設の多くは県から派遣された方で、お話しする際には、全員が「県立の福祉施設としての役割」などについて語られていた。当時の常務理事とは、出張に行った帰りの新

幹線で「県の行う福祉行政とは」「県立施設とは」といった

本質的な話を延々と語ってくださった。その当時は、事業団に対してどうしてこんなに熱量があるのだろうかと思いつながら聞いていたが、事務局移転時の書庫整理の際、常務理事が若いころに県職員として事業団の当初予算の起案をしている文書を見つけた際「若いころから係わってこられて、思い入れがあったからだったんだ」ということが分かった。その時はお亡くなりになられていたので心の中で手を合わせた。

指定管理者制度導入前には、県の担当者も、県から派遣された方も、事業団職員も「県立

施設について「口角泡を飛ばしながら熱く総論を語り合っており、かつ、まじめにくい総論で話をする訳であるから、難航した事項も

多々あった。結果については色々なご意見もあると思うが、お互いの立場を大切にしながら、その関係性を考え合うという「総論」で話し合えたからこそ、本質的な議論ができたと思う。

今は、その時と異なり、効率化とか合理化とか、すぐに結果がでることや目立つとかいったことが重視される時代になったのではないかと思う。とにかく早く結果を求めようとする効率化は、個別のことだけに關心を向かせる、わかりやすい「各論」に向かっていくのではないかと思う。各論はわかりやすいが、皮相的になりやすい面もある。効率性を求める改革は必要なことだ

と思うが、皆が改革を追い求めると本当に必要なことも省かれてしまうのではないかと私は思っている。効率、利益主義などは、個々人の尊厳をおもんばかる感じがしない。私たちの日々の業務は効率化とは正反対の立ち位置にある。時代遅れであっても総論を語り続ける側でいたい。



## 行事紹介①

今号では、利用者みなさんから特に好評だった食事に関する活動や行事の一部をご紹介します。コロナ禍で実施できなかった活動や行事も少しずつ再開し、利用者の方々とともに企画や準備、進行を行うなど、日々の暮らしの活力になるよう主体的に楽しんでいただいています。具体的には、自治会会議で企画立案や進行などの役割分担を行い、生活訓練利用者主体で準備等を行っています。また、定期的に食事に関するアンケートや食事へのリクエスト等を利用者の皆様にお聞きしています。それをもとに、月に1度、管理栄養士や厨房スタッフを交えて会議を開き、季節の食事（花見弁当、鍋、BBQ等）や誕生会のメニュー等について、視覚的にも楽しんでいただけるよう計画しています。

お花見メニュー



鍋(新年会)

すき焼き  
(年送り会)

お楽しみメニュー（寿司）では、なんと…

## お寿司屋さん登場！ 目の前で寿司を握ってもらいました。



BBQ では、コンロのセッティングや会場設営も行い、自治会のレクや肉を堪能し盛り上がりました。



# 行事紹介②

## ランチ外出

ランチ外出では、食べたいものや行きたい場所のリクエストをアンケート形式で集計し、その結果をもとに内容や場所等の計画を立てています。

今回は、CoCo 壱番屋と餃子の王将の希望が多く、お弁当のテイクアウトをして、道の駅西条のん太の酒造のイートインスペースで食事を楽しみました！

美味しい！



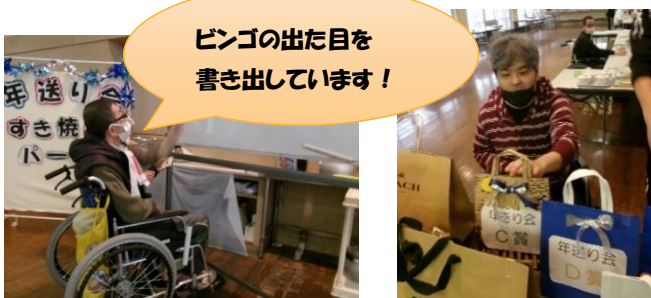
## 年送り会



1年の締めくくりとして、年送り会を行いました。自治会のメンバーを中心に企画の立案を行いました。ビンゴ大会で盛り上がり、すき焼きを堪能しました！来年も頑張っていこうという気持ちになりました！



ビンゴの出た目を書き出しています！





## 休日営業での取り組み

高次脳機能障害により自立的に生活を送ることが難しい利用者の方々に対して、土・日・祝日の休日の時間に、有意義に過ごせるような様々な日中活動を提供することによって、規則正しい生活リズムの獲得や余暇活動の充実を目指しています。



大正琴演奏会  
(ボランティア行事)



軽作業



身体トレーニング



### 利用者の動き

(令和6年10月1日～令和7年1月31日)

《新規利用者》 10名 (生活訓練8, 生活介護2) (入所10, 通所0)

【利用経路】 高次脳機能センター8 (入院7, 外来1), 他の障害者施設1, 他の病院1

《利用終了者》 5名 (生活訓練 入所2, 通所3)

【進路先】 生活の場: 自宅4, グループホーム1

日中活動: 新規就労1, 復職1, 就労継続支援A型2, その他1 (自動車運転免許取得)

利用状況 令和7年1月31日現在

	生活訓練	生活介護	施設入所
定員	24	30	40
在籍数	17	16	28



利用のご相談は  
随時受け付けて  
います。



### 編集後記

年が明け、曙光の編集をしている際に1年がもう経つのかと感じております。

今年度も日々の生活の中や行事を通して、たくさんの方々の利用者様の笑顔を見ることができました。利用者様の社会復帰を支援する施設としては、日々の訓練で個々の目標が達成されることによりもたらされる笑顔が印象的でした。

来年度もより一層、利用者様の笑顔が見られますように支援していきたいと思っております。

立春ながら酷寒の日も多くありますが、皆様どうぞお健やかにお過ごしください。

### 題字紹介

今回は、利用者の雨木千鶴さんに「曙光」の二文字を書いていただきました。書道経験はないのですが、素敵な力強い字を書いてくださいました。筆を持つ真剣な表情や書き終えた後のほっとした表情が印象的でした。